

大項目 9. 社会貢献

(目標)

知的資源をもって社会に貢献するために、社会との交流を促進するシステムを構築し、情報を発信し、教育研究上の成果を社会に積極的に還元する。

また、教育研究の充実を図るために、学外の教育研究機関、企業・団体、及び地域との連携・交流を促進する。

1. 大学・学部の社会への貢献

(社会への貢献)

B群・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

- ・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況
- ・教育研究上の成果の市民への還元状況

(企業等との連携)

C群 企業等との共同研究、受託研究の規模・体制・推進の状況

[現状把握]

(1)公開講座

本学では、大学での教育及び研究の成果を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から平成3年度より公開講座を開講している。これまでの公開講座については本項目末の資料1のとおりである。

(2)地域フォーラム「アート&デザイン」

本学では、平成7年度から校友会との共催により、進学相談会等の機会に、地方で地域フォーラム「アート&デザイン」を開催している。平成7年度から平成9年度までは毎年2会場で、平成10年度以降は毎年1会場で開催、本学教員や地元の有識者を講師、パネリストとして迎え、地方自治体、大学等との連携のもと、近年はワークショップやパネルディスカッションを中心に実施している。

平成14年度から平成16年度の内容は本項目末の資料2のとおりである。

(3)地方自治体との共同プロジェクト

本学ではこれまで各学科または複数学科による地方自治体との共同プロジェクトが実施されてきた。そのうち、平成13年度から平成16年度の間実施された取り組みについては本項目末の資料3のとおりである。

社会貢献

(4) αM プロジェクト

昭和 63 年、本学は大学発祥の地、吉祥寺にギャラリー αM を開設した。このギャラリーは、「都心と多摩地区の接点に位置する吉祥寺に、新たな文化運動の拠点となるような作品発表の場の設置」、「ユニークな活動を展開している若いアーティストに作品発表の機会を与える」等の要請に応えると同時に、大学と社会との接点としての役割を担うものとして設置された。展示は全て企画展示で1回の展示期間は4週間、年間8回の展示を行っていた。運営企画は2年を単位として、委嘱を受けたキュレーターが企画立案し、運営に当たるというシステムをとっていた。

ギャラリー αM は平成 13 年度に閉じられ、平成 14 年 4 月から αM プロジェクトとして再スタートすることになった。新たに αM プロジェクト運営委員会が組織され、委員会で年度ごとにゲストキュレーターを決定、ゲストキュレーターのもとで展示の企画立案が行われている。平成 14 年度は「ギャラリー TOM」(渋谷区松濤)、平成 15 年度からは「アートスペース キムラ アスク」(中央区京橋)を会場としている。

平成 16 年度の活動内容は本項目末の資料 4 のとおりである。

(5) 美術資料図書館展示

詳細は点検項目「図書館」によるが、美術資料図書館では教育研究のための所蔵コレクション(椅子、陶磁器、油彩画、ポスター、民俗資料など)の展示や教員の退任記念展、助手展など年間 10 回ほどの企画展を開催し、教育研究の成果を市民が自由に鑑賞できる機会を提供している。

(6) その他

地域への貢献については、上記の他に教員個々の教育研究との関わり、学生の自主企画を大学が支援するものなど、様々な形で行われている。その主立ったものについて以下に掲げる。

① 小平市野外彫刻展

昭和 63 年 3 月、彫刻学科の自主企画「鷹の台野外彫刻展」として発足、その後「小平野外彫刻展」、「小平野外アート」、「野外アートフェスティバル」と名前を変更し、現在に至っている。この企画には大学が支援するとともに、小平市から場所の提供と作品搬送費などの支援をいただいている。毎年 11 月初旬に小平中央公園で彫刻学科の学生作品を中心に展示され、日常市民の憩いの場が造形作品に囲まれた芸術空間となり、市民の方にご覧いただいている。平成 16 年度は 18 回目を迎え、58 点の展示、多摩美術大学和太鼓研究会の演奏や国立音楽大学の金管五重奏などのイベントも実施された。

② 専任教員個々の教育研究活動における社会貢献(各種委員等委嘱)

国、地方自治体等から本学専任教員の専門分野での知見を求めて、各種審議会委員・審査委員・調査委員等の委嘱がある。平成 16 年度には、派遣先の機関から委嘱状の請求のあったもので 22 人、延べ 34 の機関から 48 の委員の委嘱を受けた。

[点検・評価]

本学の公開講座は開講以来、平成 16 年度に至るまで、美術・デザインの専門大学

として社会の要請に応えるべく、テーマ、内容、講師、形式などについて、受講者へのアンケート結果を分析、様々な角度から検討を行い、先進的な取り組みを積み重ねてきている。平成 16 年度の受講者アンケート結果を見ても、その内容について好評を得ていることが伺える。

一方、美術・デザインの専門大学としての特徴である集中授業形式との関連や夏期には通信教育課程のスクーリング授業が実施されるなど、講座会場となるアトリエ、工房、演習室に物理的な制約があることから、実技・演習系の講座の開設については残念ながら市民の要望に十分に答えきっているとは言えない状況である。

その他、地域フォーラム「アート&デザイン」、αM プロジェクト、美術資料図書館展示、地方自治体との共同プロジェクト、小平市野外彫刻展、専任教員個々の教育研究活動における社会貢献など、様々な取り組みを展開しており、「知的資源をもって社会に貢献するために、社会との交流を促進するシステムを構築し、情報を発信し、教育研究上の成果を社会に積極的に還元する」、「教育研究の充実を図るために、学外の教育研究機関、団体、及び地域との連携・交流を促進する」という目標に対し、概ね達成しているものと考えている。

<16 年度公開講座「美大でアートを体験する」(鷹の台校) アンケート結果>

○応募者の住所エリア

	小平市	都 下	23 区	埼玉県	関東地区	その他	合 計
ガラス	24	12	4	5	1	0	46
油絵	27	9	1	2	2	0	41
古典技法	18	12	3	0	0	0	33

○受講後の印象

	良かった	まあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった
ガラス	21	0	0	0
油絵	18	0	1	0
古典技法	23	1	0	0

○今後どのような講座を希望するか (記述式)

- ・吹きガラス、バーナーワークなど。
- ・金工
- ・陶芸
- ・美術大学でなければできない講座すべてを期待する。
- ・通年 (定期的、2～3ヶ月など含む) の講座
- ・日本画
- ・木彫
- ・テンペラ など

社会貢献

<平成 16 年度新宿サテライト公開講座・アンケート結果>

○受講後の印象

	良かった	まあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった
人類・民俗	29	10	0	0
アート	5	5	3	0
デザイン	24	12	2	0
芸能	32	4	1	0

○今後どのような講座を希望するか（記述式）

- ・庭園、ランドスケープ、都市計画、建築計画
- ・能楽、舞楽等の日本の伝統芸能
- ・現代アートの諸相
- ・生活器具についての歴史
- ・日本工芸
- ・椅子のデザイン
- ・ファッションについて など

[改善・改革方策]

第二期中央教育審議会答申『我が国の高等教育の将来像』では、社会貢献の役割が教育、研究に続く大学の「第三の使命」として重要視するべきであると指摘している。また、現実に社会への貢献は大学と地域社会をつなぐ結節点であり、地方自治体や企業、諸団体、そして市民と大学との架け橋となるものである。

本学としては、まずは、社会貢献に対する今後のビジョンをどう描くのか、大学のミッションや運営方針として社会に明らかにするべきである。また、これまで個々に実施されてきた社会貢献諸活動を、そうしたビジョンのもとに大学総体として展開する、有機的に関連性を持つ取り組みとして体系化する必要がある。

産官学との共同研究・委託研究の更なる推進をめざし、研究支援センターが設置され、産官学共同研究推進委員会が組織されているが、それらを含めた大学として広く社会貢献の推進を図るという観点に立つならば、その趣旨をより明確にした組織への改組なども含め、教学・法人連携のもとで更なる推進を図る組織の具体化に向けて検討することが求められよう。

(企業等との連携)

[現状把握]

本学は以前より様々な形で産学の共同研究・委託研究を行ってきたが、平成 16 年 4 月よりこれを全学的な支援体制のもとでさらに展開していくために、「学校法人武蔵野美術大学産官学共同研究規則」の制定など規則の整備を行い、受け入れ窓口として

研究支援センターを設置するとともに、産官学共同研究推進委員会を立ち上げた。

平成 15～16 年度の取り組みは本項目末の資料 5 のとおりである。

[点検・評価]

上述のように平成 16 年度から企業等との共同研究、受託研究の規則、受け入れ体制を整備することにより、教育研究の充実に向け、更なる企業等との交流促進を図っていることは、評価できる。

一方、産官学共同研究・受託研究の契約では、知的所有権の所属及び実施権の取り扱い等が問題になることがあり、知的所有権に関する大学の基本的な考え方を確認するとともに、契約の締結に当たり、企業の法務部などの専門セクションと対等に折衝できる専門知識を備えた職員の育成について考慮しておく必要がある。

また、研究支援センター、産官学推進委員会の設置後、企業等から申し出のあったプロジェクトについて、随時受入れの是非、受入れ体制・方法を委員会で検討してきたところであるが、この間の経験を踏まえ、本学としての産官学研究プロジェクトの運営方針（受入基準等）を策定するべきであろう。また、同時に、受け入れに当たって障壁となる様々な問題が存在することも事実であり、その解決に向けた検討を進めることが求められる。

[改善・改革方策]

産官学研究プロジェクトの運営方針の策定、受け入れに当たっての障壁の解消等に向け、産官学共同研究推進委員会で速やかに検討を開始するべきである。

2. 大学院の社会貢献

(社会への貢献)

B群 研究成果の社会への還元状況

[現状把握]

現在本学の大学院には大学院専任教員はおらず、全員が学部との兼任となっている。また、研究組織においても、基本的に学部 11 学科の教育組織（研究室）を基礎として構成されており、研究所組織も有していない。

学部の現状把握の項で掲げた社会貢献活動は、学部と大学院を合わせた大学総体としての取り組みであり、それぞれの企画には大学院生が参加している活動を多く含むが、大学院独自あるいは単体としてのものはない。

[点検・評価]

しかしながら、公開講座、地域フォーラム「アート&デザイン」、 α M プロジェクト、産官学共同研究などや教員個々の社会的活動は、取りも直さず大学院を構成する教員の研究成果の社会への還元そのものであり、積極的な貢献を果たしているものとして、評価できる。

一方、年度はじめに全教員に研究業績の提出を依頼しているもののその回収率はおよそ 70%という状況であり、大学として教員の研究業績を十分把握できているとは言えない状態である。また、国、地方自治体等から本学専任教員の専門分野での知見を求めた、各種審議会委員・審査委員・調査委員等の委嘱についても、正式な手続き（大学としての承諾）を経ないものもあると考えられ、十分な把握がなされているとはいえない。大学の企画実施する取り組みについてはともかく、教員の研究成果の社会還元の全貌を把握し、点検・評価するためには、材料が十分ではないと言わざるを得ない。

[改善・改革方策]

大学院の研究成果の社会への還元状況を把握するシステムの構築に向けて、大学院研究科委員会での検討が望まれるところである。

資料1 公開講座一覧

<平成3年度～平成8年度 主に講義中心の講座>

- ・「造形美を探る」を基本テーマとして、色、形、空間、装飾、人間と表現、発想と表現、くらしと造形など多様な切り口から造形美を探る講義
- ・グラフィック・デザイン、テキスタイル、陶磁、エディトリアル・デザインなどデザインの様々な領域の第一線で活躍する卒業生からの講義「デザインの現場」
- ・美大の授業からという共通の視点のもと、「風土とかたち」、「美の実験」、「新しい時代へ」などをテーマに、本学の専任教員を中心とした指導陣による講義
- ・「名誉教授－自作を語る」

<平成9年度～ ワークショップ、ギャラリートーク、対談などを中心>

- ・ワークショップ（平成15年度から「美大でアートを体験する」）
洋画、日本画、絵画技法、アニメーション、ガラス、陶芸など。
- ・「造形美を探る」 ギャラリートーク
- ・平成16年度より「新宿サテライト公開講座」 対談
また、平成16年度に開催した公開講座の概要は以下のとおりである。

○「美大でアートを体験する」（鷹の台校）

- ・ガラス入門「菓子器をつくる」
8.30、8.31、9.2、9.4 斎藤昭嘉教授＋近岡令非常勤講師＋工芸工業デザイン学科研究室
定員 20名 受講者数 21名
- ・「油絵講座『静物を描く』」
11.15、11.22、11.25 遠藤彰子教授＋油絵学科研究室
定員 20名 受講者数 21名
- ・「油絵技法講座『古典技法で自画像を描く』」
11.20、11.27 斎藤國靖教授＋油絵学科研究室
定員 20名 受講者数 25名

○新宿サテライト公開講座（新宿サテライト）

- ・「人類・民俗『生命、人間、日本人、私たち・・・』」
10.13 関野吉晴教授（文化人類学）＋相澤韶男教授（民俗学）
定員 90名 受講者数 72名
- ・「アート『日本画の現在』」
10.20 内田あぐり教授（日本画学科）＋高島直之教授（芸術文化学科）
定員 90名 受講者数 37名（台風の影響）
- ・「デザイン『デザイン／心地よさをめぐって』」
11.6 柏木博教授（デザイン史）＋大竹誠東京造形大学教授
定員 90名 受講者数 46名
- ・「芸能『言葉で〔デザイン〕するーデザイン・落語・研究の意外な接点ー』」
11.10 今岡謙太郎助教授（演劇）＋林家たい平（落語家）
定員 90名 受講者数 46名

社会貢献

資料2 地域フォーラム「アート&デザイン」

○平成14年度 岡山会場

月 日：9.1(日)

場 所：岡山県城下地下広場、岡山県立美術館ホール

主 催：武蔵野美術大学、武蔵野美術大学校友会・同岡山支部

後 援：岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、山陽新聞社、NHK岡山放送局

テーマ：「おもしろい」を遊ぶ 造形遊びから見えてくる日常と表現

内 容：①コミュニケーションゲーム ワークショップを学ぶ

及部克人教授（視覚伝達デザイン学科）

②事例報告、分科会、分科会報告とまとめ

パネリスト：ワークショップおもしろ探検隊

谷本雄太 ファシリテーター

ハート・アート・おかやま

上田久利岡山大学教育学部助教授、田野智子ハート・アート・おかやま事務局

遊び場を考える会

岡本和子、浦上雅代、原聡美

武蔵野美術大学

及部克人教授、今井良朗教授（芸術文化学科）他

来場者数：約80名

○平成15年度 京都会場

月 日：9.23（火・祝日）

場 所：京都芸術センター、六角町吉田邸

主 催：武蔵野美術大学、武蔵野美術大学校友会・同京都支部

後 援：京都府、京都市、京都新聞社、NHK京都放送局

テーマ：町屋インスピレーション 2003

内 容：①プロローグ

基調講演 吉田孝次郎氏（祇園祭山鉾連合会副理事長）

対 談 小池一子教授（空間演出デザイン学科）

若林広幸氏（建築家）

②第一部

<町家インスピレーション・町家体験報告&学生作品発表>

武蔵野美術大学、大阪工業大学、京都精華大学他芸術・デザイン系大学学生

<建物ウクレレ化保存計画>

伊達伸明氏（美術家）、高橋章子氏（エッセイスト）

③夜の部 懇親会

吉田邸にて祇園舞妓さんの「をどり」鑑賞

来場者数：約140名

○平成 16 年度 北海道会場

月 日：9.19(日)

場 所：北海道立近代美術館

主 催：武蔵野美術大学、武蔵野美術大学校友会・同北海道支部

後 援：北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、新聞社・放送局各社、北海道
デザイン協議会、日本建築家協会北海道支部など

特別協力：北海道立近代美術館

テーマ：どんな色？どんなカタチ？北のマチの「未来予想図」

内 容：Part 1 産学共同プロジェクト・大学の新たな動向

武蔵野美術大学＋日産自動車デザイン本部「Nプロジェクト」

[N] プロジェクトの紹介

真田日呂史教授（工芸工業デザイン学科）、宮島慎吾教授（基礎デザイン学科）、川
上誠司氏（日産自動車㈱デザイン本部・人事グループ）

学生によるプレゼンテーション

Part 2 シンポジウム「大地・いろ・かたち」北のアートとデザインを語る

パネリスト：柏木博教授（デザイン史）、國松明日香氏（札幌市立高等専門学校教授）、
倉本龍彦氏（道都大学教授）

コーディネーター：梅津恒見氏（北海道デザイン協議会会長）

Part 3 北のまち札幌・小樽再発見－21人の学生によるフィールドワークから－

札幌市立高等専門学校、道都大学、北海道工業大学、武蔵野美術大学の各学生4グル
ープによる報告

ナビゲーター：國松明日香氏、倉本龍彦氏、住屋浩氏（北海道工業大学教授）

協力：宮下勇教授（建築学科）

クリエイティブ：阿部典英氏（北海道浅井学園教授）、中田ゆうこ氏（イラストレーター）、
上遠野克氏（建築家）

来場者数：約 200 名

資料 3 地方自治体との共同プロジェクト 平成 13 から 16 年度

<東京都小平市>

- ・基礎デザイン学科と小平市役所との「小平市の公共デザイン」

<新潟県岩室村>

- ・建築学科・空間演出デザイン学科等と新潟県岩室村等との「アートサイト岩室温泉」

<岐阜県恵那郡加子母村>

- ・空間演出デザイン学科と岐阜県恵那郡加子母村教育委員会との「加子母歌舞伎大会における舞
台美術の創作」

<福島県いわき市遠野町>

- ・空間演出デザイン学科といわき市遠野町との「遠野生活アートギャラリー別棟の整備と修復作
業」

社会貢献

<神奈川県川崎市>

- ・空間演出デザイン学科と川崎市との「光の祭典『かわさきインナイト 2002』のイルミネーション制作とパフォーマンス」

<徳島県神山町>

- ・芸術文化学科と徳島県神山町によるワークショップ

<東京都府中市>

- ・彫刻学科と府中市との「彫刻のあるまちづくり事業」

<東京都日野市>

- ・共通絵画研究室と日野市による「多摩都市モノレール線程久保駅前道路擁壁修景事業」など

資料4 平成16年度αMプロジェクト

①さかぎよしお展 H16.6.21 (月)～6.30 (水)

ギャラリートーク：H16.6.26 (土) さかぎよしお (多摩美術大学卒業) + 児島やよい (αM ゲストキュレーター)

②タン カイシン展「ISLAND HOPPING 2002-2005 東京」 H16.7.2 (金)～7.10 (土)

ビデオパフォーマンス：H16.7.3 (土)

ギャラリートーク：H16.7.3 (土) タン カイシン (本学大学院在学中) + 飯村隆彦 (メディア・アーティスト)

③富田勝彦展「艶浄」 H16.8.30 (月)～9.8 (水)

ギャラリートーク：H16.9.1 (水) 富田勝彦 (本学卒業) + 立花義遠教授 (心理学)

④多和英子展「Welding」 H16.9.10 (金)～9.18 (土)

ギャラリートーク：H16.9.11 (土) 多和英子 (日本大学卒業) + 児島やよい

⑤加藤泉展 H16.10.18 (月)～10.27 (水)

ギャラリートーク：H16.10.23 (土) 加藤泉 (本学卒業) + 児島やよい

⑥佐藤万絵子展「in the picture / out of the picture 絵のなか / 絵のそと」

H16.10.28 (木)～11.6 (土)

⑦谷山恭子展 H16.12.6 (月)～12.15 (水)

ギャラリートーク：H16.12.11 (土) 谷山恭子 (本学大学院修了) + 児島やよい

⑧鷺山啓輔展「フリーズ・フローター」 H16.12.17 (金)～12.25 (土)

スライド上映会+詩の朗読会：H16.12.18 (土) 鷺山啓輔 (本学大学院修了) + 陳樹立 (詩人)

⑨「松井紫朗+藤代凡子 aquaria」展 H17.3.7 (月)～3.26 (土)

アーティスト・トーク：H17.3.7 (月) 松井紫朗 (京都市立芸大大学院修了) + 藤代凡子 (Chelsea College of Art and Design 卒業) + 児島やよい

資料5 産学の共同研究・委託研究

<平成15年度>

- ・基礎デザイン学科、工芸工業デザイン学科とアイリスオーヤマ(株)による「[I] プロジェクト」

- ・工芸工業デザイン学科とトヨタウッドユーホームによる「狭小空間 HUT-II <環具>の研究」
- ・視覚伝達デザイン学科、工芸工業デザイン学科と森下(株)による「花と緑と生活環境」
- ・工芸工業デザイン学科、基礎デザイン学科と日産自動車(株)による「[N] プロジェクト」
- ・視覚伝達デザイン学科とサントリー(株)、(株)博報堂による「若者ウイスキーと出会う」
- ・工芸工業デザイン学科と INAX(株)による「INAX との産学合同授業『水回り空間計画』」

<平成 16 年度>

- ・工芸工業デザイン学科と INAX(株)による「INAX との産学合同授業『水回り空間計画』」
- ・工芸工業デザイン学科、基礎デザイン学科、デザイン情報学科とカシオ計算機による「[X] プロジェクト」
- ・基礎デザイン学科、工芸工業デザイン学科、デザイン情報学科とアイリスオーヤマ(株)による「[I] プロジェクト」